

2005年4月25日に、JR西日本福知山線で発生した未曾有の大惨事は、多くの死傷者を出すと共に、公共交通機関としての在り方について様々な問題点を露呈しました。また、被害に遭った乗客は身体の怪我と共に精神的にも大きな傷を負う事となり、社会生活に復帰するためには再度列車に乗車するというハードルを越えなければなりません。

このシンポジウムではJR福知山線列車事故の特異性と、この事故が社会にもたらした影響、公共交通機関の主軸として日々列車を運行しているJR西日本の安全性、そして被害者が“こころ”と“身体”に受けたダメージについて考えると共に、有識者や同じ立場のもの同士の話を聞く事により、必要な知識や情報を得る場となる事を目的としています。皆様のご参加をお待ちしております。

日時 2006年10月29日(日)
13:30~ 17:00(13:00開場)

場所 三田市まちづくり協働センター
(キッピーモール内・6F多目的ホール)



お車でお越しの場合は、市役所隣の「市営駐車場」に停めて頂ければ無料になります。

駅前の第一、第二駐車場に駐車の場合は、6階スタッフルームにご呈示頂ければ3時間までの無料駐車券有)

対象 :JR福知山線列車事故被害者(主に負傷者ですが、どなたでもご参加頂けます)
当日はマスコミ公開で行われますが、取材を望まれない方の席をご用意しております。

定員 約200名

参加費 :300円(資料代など)

主催 :「JR福知山線列車事故を考える」実行委員会

共催 :NPO法人 市民事務局かわにし/ NPO法人 ひょうご被害者支援センター/ 場とつながりの研究センター(NPO法人申請中)/ TASK 鉄道安全推進会議/ 425ネットワーク/ JR福知山線列車事故負傷者・遺族の有志

後援 :兵庫県こころのケアセンター(申請中)/ 三田市(申請中)

連絡先 :NPO法人市民事務局かわにし TEL:072-774-7333

「JR福知山線列車事故を考える」シンポジウム

こころの事故の捉え方と「こころ」と「身体」の後遺症について

「JR福知山線列車事故を考える」 ~この事故の捉え方と「こころ」と「身体」の後遺症について~

【講演者およびスタッフ紹介】

講演者

- ・佐藤 健宗(さとう たけむね)
(弁護士: TASK・鉄道安全推進会議事務局長/ 信楽高原鉄道事故・明石歩道橋事故・JR福知山線列車事故被害者支援弁護士)
- ・加藤 寛(かとう ひろし)
(精神科医: 兵庫県こころのケアセンター研究部長/ NPO法人ひょうご被害者支援センター副理事長)
- ・柴田 政彦(しばた まさひこ)
(医師: 芦屋市立芦屋病院麻酔科ペインクリニック部長)

メッセージ~事故から1年半が経過して

- ・小椋 聡(おぐら さとし)
(JR福知山線列車事故・乗客)
- ・加藤 慶子(かとう けいこ)
(JR福知山線列車事故・乗客)
- オープンセッション・コーディネーター
- ・堀口 節子(ほりぐち せつこ)
(臨床心理士: NPO法人ひょうご被害者支援センター)

オープンセッションでは、参加者に記入して頂いた質問内容をコーディネーターが紹介し、回答者がコメントをします。

司会者

- ・三井 ハルコ(みつい はるこ)
(NPO法人市民事務局かわにし副理事長/ 事務局長)

【その他】

- ・シンポジウム終了後、各分野の専門家に相談をする時間を設けております。希望者は、是非ご参加下さい(マスコミ非公開)。当日、時間が足りずに充分なお話が出来なかった場合でも、後日支援専門家と相談する事も可能です。
- ・会場には専門のスタッフが待機する他、休憩室もご用意しております。